

大人になるための『カゲキ』な教え『なんで?』

納得できない…14歳のきみたちへ』が話題

志茂田景樹さん

読者は14歳に限らず
その前後の年代の人も、
大人や学校の先生にも
読んでもらえる内容です



PROFILE

しもだ・かげき 作家。1940年、静岡県生まれ。中央大学法学部卒。'76年『やっこ探偵』で小説現代新人賞を受賞し作家となる。'83年『黄色い牙』で第83回直木賞を受賞。タレント、モデルとしても活躍し、'99年には「よい子に読み聞かせ隊」を結成、各地で絵本の読み聞かせ活動を行っている。近著に絵本『キリンがくる日』（絵・木島誠悟）など。

14歳というのは大人になるための通過点

もし、あなたがお子さんに「なぜ勉強しないといけないの?」と真剣な表情で聞かれたら、どう答えますか? 「学校の授業でいろいろなことを学ぶのは、本当に学ばなければ、長い人生をちゃんと送っていけないからだ。生きるために学ぶ」 冒頭の質問にそう答えているのは、いろいろなことに悩み、なかなか答えを出せない年代を対象に書かれた『なんで?』で!? 納得できない…14歳のきみたちへ』の著者・志茂田景樹さんです。

「14歳前後というのは、大人になるための大きな通過点なんです。中学1年までは小学生の延長ですから、親も子どもを理解しているんです。でも中学の終わりから中々くらくらになると、心身ともに大きく変化が起こり、それまでの自我の下から、新しい自我が芽生えてきて、相別するんです。それは自分の意志ではない変化なので、本人も自分で自分がよくわからなくなつて、不安が生まれるんです。しかし、その新しく生まれた自我は、子どもときの自我を駆逐するのではなく、葛藤しながら融合して、新しい自我を構築していくんです」

「仕事ってなんだ」「日本ってなんだ」「愛ってなんだ」という4つの章で構成され、その年代がぶち当たる「親がやれというから何となく勉強している自分に疑問を感じる」「友情って本当はどういうもの?」「原発についてどうしたらいいと思う?」「結婚ってどうしてするの?」といった内容。もし子どもに質問されたら、大人も「えーっ」と……と答えに窮してしまいうような問いかけに、まるで語りかけるようなやさしい口調で、志茂田さんなりの考えが語られています。

「僕としては、4割おせっかい、6割がやや恐る恐るのアドバイス、と理解してもらえたらいいのかな、と思っっています(笑)。こうした疑問を抱くのって、とても自然なことだと思っんです。だから押しつけではなく、大人になるために何を準備し、どう理解したらいいのか、その見方や考え方、頭に置いておいてもらいたい心がけやアドバイスとして書いたつもりです。この中から、ひとつでもふたつでも悩みに対する答えをすくい取ってもらえたら、著者冥利に尽きますね。そして読者は14歳に限らず、その前後の年代、大人たち、学校の先生などにも読んでもらえるような内容で書いています」

悩みの落とし穴に落ちないために

この中学生のときをしっかりと乗り越えることがとても大事で、ここを上手に乗り越えられると、10代後半の思春期をちゃんと迎えられる、と志茂田さん。

「今の子どもたちは僕が14歳だった60年前より、身体は大きいし食べ物も違う、情報やものも豊かだし、知識もあると思っんです。でも人間ってよくできたもので、大人になるた

取材・文/成田全

短文投稿サイト「ツイッター」で、人生への深い洞察や人々の悩みに答える言葉をつぶやいている志茂田さん。140字に込められたやさしさと厳しさ、そして明るい未来を感じさせる内容は、読む人の心をフツと軽くすると話題になっています。「最近、ちょっと疲れたなあ……」と感じたら、インターネットでぜひアクセスを!



『なんで!? 納得できない...14歳のきみたちへ』1260円/じゃこめてい出版

めの準備をする年齢は変わっていないんです」
 しかし、志茂田さんは「悩むのはいいことではあるんだけど、思わぬ落とし穴に陥りやすい年代なので、そこには注意してほしい」と釘を刺します。

てね、話が合わないよ、よし、表に出ろ！ってケンカしたもんだけど、今の人たちは気分よくいたい、自分の感性が誰かに侵害されるのは嫌だと考えている人が多いんですよ。だからそれが侵されてしまつと、僕たちが思いもよらなかつた、気づかなかつた落とし穴に落ちて、さらに潜

り込んでいってしまったんですね。僕にしてみたら、そんなところへ潜り込む必要はないのに、と思つたようなところまでいっちゃつた。だから今の悩みって、昔とは質が違つたんですよ。僕らが若いころの悩みとこのころの、生活の中でもがき、それに心が敏感に反応したり、社会の中での階段を踏みはずしたり、はじき出されたり、阻害されたりすること、悩み、絶望したんです。でも今の若い人たちは、世間と関わりを持たないまま、自分の心の中だけで悩んでいるんですね。だから一気に絶望するという感じではなくて、いつまでも痛みを引きずつて、奥に入り込んで、心の病になつてしまつた。そうやって心のリズムが崩れてしまつと、整えることがとても難しいんで

す」
 世の中に閉塞感(へいそくかん)が漂い、これまでの価値観が通用しなくなっている現代。「どこを見渡しても、旧態依然としたものが累々と重なっている今の時代こそ、新しい価値観が必要なんです」と志茂田さんは語ります。
 「僕らが気づかなかつたような落とし穴にはまり込まないためにも、中学生時代の過ごし方というのはとても重要なんです。だからこの本を読んでもらえると、どこかで納得してもらえんじゃないかなと思つています。もちろん個人差がありますから、ひとりひとり迎える年齢や準備の仕方、答えは違つたものです。でも大人になるために必要なことって、今も昔も全然変わっていないんですよ」

ライターは見た!

著者の素顔

Tシャツ、ショッキングピンクの上着をお召しになっていた `カゲキ、ファ

この日はトレードマークの虹色ヘアに、たくさんのマイクが取り囲むデザインの

ッションの志茂田さん。スラッとした体形と体重は20歳のころと変わらないそうで、その秘密は日常で何気なくできる運動をしていることだそうです。ちなみに志茂田さん、60歳で年齢をいったんリセットし0歳から再スタート。「今が出発点」という言葉とともに、今年で14歳なんだそうです!